

# かつどう 部会

部会長 三井絵美子(森と木) 副部会長 山本雅晃(エコーンファミリー) 副部会長 小林真由美(廣望会)  
運営委員会担当者 岸田隆 ケアマネ連絡会担当者 浅井芙美子 赤澤佑太  
長野市障害福祉課担当者 池田匠

## 1 年間テーマ

地活連絡会、生活介護事業所連絡会にて共通の課題を共有し、情報交換を通し相互関係を築く。それぞれの事業所やサービスの在り方と意義を深める機会とする。

## 2 部会等の開催状況

日時		会場	人数 (人)	部会のテーマ	主な内容
月	日				
7	28	桃の郷 交流室	15	生活介護事業所連絡会	グループワーク テーマ「生産活動と余暇のバランス」 ・全生活介護事業所対象にアンケート ・アンケート結果と課題について話し合い
8	25	桃の郷 交流室	19	地活連絡会	グループワーク ・三事業所からのケース検討 ・アセスメントや市との連携について話し合い
10	13	いつわ苑	21	生活介護事業所連絡会	グループワーク テーマ「送迎について」 ・全生活介護事業所対象にアンケート ・アンケート結果と課題について話し合い
11	17	ふれあい福祉センター	21	地活連絡会	グループワーク ・三事業所からのケース検討 ・地活現状からの在り方運営について
2	2	ZOOM		研修	テーマ「強度行動障害の見方」 岸田隆氏より zoom にて研修
3	8			まとめ	

## 3 機関紙、冊子、アンケート調査・行事など報告書

# 令和5年度 事業報告

## 4 課題について

### (1)主な検討課題

#### <地活連絡会>

地活連絡会では初めての事例検討会を開催し、各回3事業所から事例提供をしていただき、グループワークを行った。第1回の検討会では、各利用者さんのアセスメント状況や長野市との連携について、という視点から話を進めるようにした。第2回では、地活の運営費という視点から運営にあたるうえでの課題を抽出していくようにした。

各事例について参加者から意見や情報提供、また課題等が挙げられ、それらを皆で共有し、今後の支援や対応に活かしていくことのできる機会となった。

#### <生活介護事業所連絡会>

利用者の高齢化や職員の人材不足など生活介護事業所を取り巻く環境が刻々と変化し、事業所も対応に追われている。ここ数年課題として挙がっている「送迎」と「生活介護事業所での仕事と余暇のバランス」を今年度のテーマとし、各事業所の実態把握や意見交換を行い、今後のあり方を検討した。

### (2)検討の目的と結果(現状)

#### <生活介護事業所連絡会>

(目的)テーマに沿って事前にアンケート、当日はグループワークを行い、生活介護事業所の実態と課題について情報交換を行う。

(結果)第1回 テーマ『生産活動と余暇のバランスをどのようにとっていますか?』アンケートで、半数程度の事業所は何らかの生産活動を行っていることがわかった。課題として、①個別支援の必要な方、高齢になってきた方が取り組める生産活動の提供 ②生活介護と就労、また、相性があわない方同士のスペースわけといった環境設定について、などあがった。

第2回 テーマ『送迎について』

送迎希望に答えきれていないこと、運転手や添乗職員の確保、運転手の高齢化、維持費・人件費・ガソリン代の負担、利用者同士の相性など、共通の課題としてあがった。

## 令和5年度 事業報告

### <地活連絡会>

(目的)各事業所の事例を持ち寄ることにより、地活の課題抽出の機会とした。

(結果)改めて地活利用者の皆さんの年齢や障がい種別は幅広く、その相談も多岐に渡ることが分った。地活においては確たるニーズが明確にならない分、本人の抱える漠然とした不安を的確に捉え、場合によっては本人が行えない言語化をしてサービスにつなげる必要性もあり、また言語化出来ない場合には不安に寄り添いながら、数年にわたる長い期間で伴奏支援という形で援助をしていかねばならないこともある。明確にならないニーズに向き合いながら、どの事業所も思考錯誤ながらの支援をしていることが分った。

### <研修会「強度行動障害の見方」>

研修への参加しやすさから ZOOM で開催し、「強度行動障害の見方」をテーマに長野県域発達障がいサポートマネージャー岸田氏より講義いただいた。質疑応答ではスタッフの支援スキルについても話題になった。今回参加できなかった事業所から、資料と動画を見たいと依頼あり対応している。

## (3)引き続き検討が必要とされる課題

### <地域活動支援センター>

地活については、柔軟な取り組みが可能とされており、利用されている方の利用目的が多岐に渡っている。しかし個別給付ではないため、ニーズがはっきりされていないことも多いなかで、様々な障がいや病気、困難さを抱えた利用者さんを受け入れており、地活としての役割が幅広くなっている現状がある。地活のなかで全て解決できるということではないことを含めて、地活が担うことについて検討を続ける必要がある。

### <生活介護事業所>

- ・送迎について、送迎スタッフ人材不足が問題の一つになっている。送迎中車内でのトラブル対処等様々な課題があり、引き続き連絡会を通じ意見交換が必要である。
- ・生活介護利用者の方の生活の充実を考える中で、ご本人の意思を汲み取りながらも作業と余暇のバランスをとり活動を考えていくことが難しくなっている。各事業所での実践取り組みなど継続して情報共有していきたい。

### <研修会>

- ・スキルアップのための研修の機会とするため、どのような要望があるか把握し実施する。

## 令和5年度 事業報告

### (4)部会の運営体制について

- ・かつどう部会執行部役員会 年 5 回開催(年間計画、連絡会の企画・準備)
- ・地活連絡会 年 2 回開催
- ・生活介護事業所連絡会 年 2 回開催
- ・障害理解のための研修会 年 1 回開催

### 5 総括(1年間を振り返って)

地活連絡会と生活介護事業所連絡会の開催がコロナ過から昨年度まで年間 1 回ずつのとなっていたが、今年度から 2 回ずつ計 4 回開催することが出来た。

地活連絡会ではケース検討を行いながらも、事業所の取り組み方やそこから見えてくる課題について話し合う事が出来た。ひきつづき次年度も情報の共有や交換、課題について話し合える場を作っていきたい。

生活介護事業所連絡会ではテーマを決めて興味関心ある人が集まり話あう場を作った。生活介護事業所の活動は多岐にわたりテーマも様々になるので、今後も話題にあがるテーマについて話し合う場を作るため連絡会の開催を継続していきたい。

研修会は今年度も参加しやすいかたちを考え ZOOM で行った。研修映像も録画でき、参加できなかった事業所で希望する方に資料と映像を渡すことができ良かった。